

未来の機械

滑川 諒

将来は機械をつくって人のために役立つ仕事を  
 ぼくは機械をつくって人のために役立つ仕事を  
 してみたいのです。たとえば、会社にちこく  
 しそうなきでも光の速さで走る車や、体の  
 不自由な人でも運転出来る車。家事を手伝っ  
 てくれるロボットなどを作る仕事です。  
 こんなことを想像しているうちに、未  
 来の機械「はどんな物か」ということを考えま  
 した。未来の機械は大きく分けて二つあり、  
 一つは不便を便利にする機械です。道案内を  
 してくれるロボット、人のかわりにきけんな  
 仕事をしてくれるロボットなどです。もう一  
 つは、不可能を可能にする機械です。これは、  
 時を自由に行き来出来るタイムマシンなどで  
 す。  
 また、ぼくは自分のためには、サンタ  
 見機「をつくってみたいのです。クリスマス  
 日に、み時間部屋をかん視して、サンタ

ワロースが来たら教えてくれる機械です。な  
 ぜかというところ、これも教えてくれないので、  
 自分で解明したいからです。サンタ発見機  
 ーをつくるときは、24時間かん視できるよう  
 に電池などをたくさんつんでサンタワロース  
 をにんしきしなさいといけないし、どうやって  
 サンタワロースがいたことを教えてくれるの  
 かなどとたくさん問題はありますが、た  
 い実現したいです。  
 しかし、社会を便利にしようとして機械をどん  
 どんつくとかかんきょう問題が起きると思いま  
 す。電池はリサイクル出来ないからゴミ問題  
 になります。また、カリリンは地球温暖  
 化を進めます。そしてもう一つの問題は、ト  
 ヲグ運動不足になることです。どんどん機械  
 が身近になると、自分か動かないで、機械に  
 全部仕事をまかせるからです。機械を開発す  
 るときは、問題が起きないように作りたいで  
 す。  
 ぼくは、人の役に立つ機械を作るために、

